

# この子たちの夏

## 1945・ヒロシマ ナガサキ

構成演出||木村光一  
装 置||石井強司  
照 明||古宮俊昭  
効 果||深川定次  
舞台監督||井川 学  
短歌・俳句の朗読||高安智実  
都内在学の  
中・高校生

旺なつき



かとうかず子



島田歌穂



高橋紀恵



根岸季衣



原日出子



出演(五十音順)

唯一の原子爆弾での被爆国である日本。日本人としての経験を記録でなく記憶に留めたいと、構成・演出の木村光一が遺稿や手記、詩歌など膨大な資料の中から、テーマを「母と子」に絞り朗読劇としてまとめたのが本作品です。

1985年の初演以来、全国47都道府県、396市町村で786回の公演を行ってきました。

2011年、長年制作の母体であった「演劇制作体(地人会)」から引き継ぎ、実行委員会形式で新たに生命を吹き返すことが出来たことは、あの原爆で命を落とした彼らの死の上にある。今、生きる私たちにとって、大切なことであったと思います。

死を直前にし、残した子供たちの言葉。大豆ご飯を食へなかつた息子を叱つたまま補習授業の学校へ送り出した母の後悔。自分の目の前、校庭で親兄弟を茶毘にふすという想像も出来ない体験をせざるを得なかつた少年の思い……。

普通の生活を送っていた人々の言葉が静かに私たちの心に語りかけます。それは人を思いやる気持ちや優しさに溢れ、そしてもつと生きたくたという思いが見えかくれているのです。そこに素晴らしい営みを感じるとき、今の私たちは何者なのかと振り返らざるを得ません。

その声と想いを次の世代に引き継ごうと、出演者も一斉に戦後世代となりました。戦争を知らない人間が、これからは担う若者たちに伝えてゆく演劇という表現形態だからこそなし得ること。

体験のない6名の女優が、細かい演出・指導のもと、戦争の疑似体験をし、大切なものは何なのかを身体で受けとめ表現することにより新しい作品として蘇りました。

「生きよう、生き抜こう」と最後まで明日を夢みていた死んだ子供たちの、明るく前向きな言葉。暑い夏の日、その言葉に耳を傾けてみて下さい。

### 寄せられた感想より

■ヒロシマ・ナガサキにバクタンがおとされて、わたしとおなじくらしい女の子と男の子がなくなりました。せんそうはもうしたくありません。(女性・7歳)

■出演者の方々の生の声を通して、本やテレビなどでは気づくことのなかつた被爆者の気持ちや思いに気づかされた。(男性・13歳)

■生まれる前の出来事、経験のない出来事。でも決して他人事でもなく、忘れてはいけない今にも続く出来事だと強く強く思いました。昔の問題じゃない今の問題だと考えさせられました。(女性・19歳)

■この一時間半で、どれだけ人が死ぬことが言われたらだろうか。人がとけるって何？皮膚剥けてはがれんの？できればもう聞きたくないけど、聞かなくちゃいけない気がする。(男性・19歳)

■戦争について教科書だけの知識しかなかったけれど今回拝見してその当時の思い、親が子供に対して思う愛情、子供が親を呼ぶ気持ち、痛いほど伝わってきました。それと同時に何も知らない自分自身が恥ずかしくも感じました。(女性・21歳)

■観るたびに色々な感情が湧いて来ます。年一回大切なことを忘れないように観ています。改憲等、簡単に賛同している方、原発に簡単に賛同している方、ぜひ見て欲しいです。(女性・44歳)

■6人の女優は、この子たちの6人の母親でした。演ずる世代が違うとこんなにも印象が変わるものかと、前の舞台を見ているので、そう思いました。祈りから希望へ、両方の舞台を見て、感じました。悲惨さだけでなく、生き抜いていく悲しい明るさも伝わってきました。(女性・52歳)

■戦後68年、当時を覚えている方が少なくなっているだけに、今の若い世代に語りつがなくてはならないことだと痛感します。生きたくて生きられなかつた人々の分も、一日一日大事に過ごさなくては……と思いました。(女性・69歳)

■被曝したその時、もし私とお母さんが、一緒にいたら、きつとお母さんは火傷して腐臭をはなつ私でも抱きしめてくれるらうな、と、母の愛を深く今感じています。(無記入)

2015年  
**8月8日[土]**【13時/17時】  
**9日[日]**【14時】

**世田谷パブリックシアター**

■前売開始 = 7月1日[水]

Simultaneous English translation will be provided at all performances. (Free rental of ear-sets)

■主催  
公益社団法人 国際演劇協会(ITI/UNESCO)  
日本センター

■提携 = 公益財団法人 せたがや文化財団  
世田谷パブリックシアター

■後援 = 世田谷区

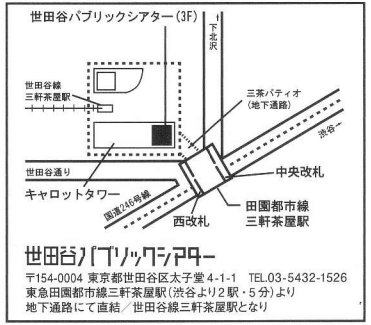
■企画制作 = 地人会新社

■お問い合わせ 世田谷パブリックシアターチケットセンター ☎03-5432-1515 (10:00~19:00)

- 料金[消費税込・全席指定]
  - 一般 = 3,000円
  - U24 = 1,500円(要事前登録・詳細は劇場オンラインチケットへ)
  - 高校生以下 = 1,500円(\*1)
  - ファミリー割引(保護者同伴の中学生以下) = 1,000円(\*1)
  - アーツカード会員 = 2,900円(前売りのみ)(\*2)
  - 劇場友の会会員 = 2,900円(前売りのみ)
- (\*1)世田谷パブリックシアターチケットセンターのみの取り扱い、要年齢確認
- (\*2)「せたがやアーツカード」に要事前登録(世田谷区在住の方対象)

- 前売取扱い
  - [世田谷パブリックシアターチケットセンター] 03-5432-1515(10:00~19:00)
  - [世田谷パブリックシアターオンラインチケット]
  - [PC] <http://setagaya-pt.jp> 【携帯】<http://setagaya-pt.jp/m/>
  - [チケットぴあ](一般料金のみ) 0570-02-9999(Pコード 443-838)
  - [イープラス](一般料金のみ) <http://eplus.jp> (PC・携帯共通)

- 車椅子スペースのご案内(定員あり・要予約)
  - 料金:一般料金より10%割引(付添者は1名まで無料)
  - 申込:ご希望日の前日19時までに03-5432-1515
  - (世田谷パブリックシアターチケットセンター)へ
- 託児サービスのご案内(定員あり・要予約)
  - 料金:2,000円
  - 対象:生後6ヶ月以上9歳未満(障害のあるお子様についてはご相談ください)
  - 申込:ご希望日の3日前の正午までに03-5432-1526(世田谷パブリックシアター)へ



**RING!RING!**  
プロジェクト  
競輪の補助事業